

平成29年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成29年度実績
1-1-(1)	地域の行事等における子どもの参加の促進	移動児童館事業として児童館のない地域にいき、北島子ども会への子ども会行事の支援を行った。夏祭りなどの児童館行事で岩倉市ボランティアサークルに依頼し連携して行事を実施した。子ども会会員数を増やすため、岩倉市子ども会連絡協議会主催で「親子いもイモ大作戦」と題し、幼稚園、保育園の子どもから小学校低学年の子どもを持つ親子を対象に実施し、親子19組51人の参加があった。西尾張地区子ども会連絡協議会の地域子ども会指導者育成研修会を実施した。岩倉市ボランティアサークルに依頼し、ニュースポーツやレクリエーションゲームなどを行い、小学生34人の参加があった。
1-1-(2)	まちづくりにおける子ども委員・子ども会議の設置	児童館行事「にこにこシティいわくら」において、子どもの実行委員を募り実行委員会を計5回実施し、実行委員として小学生49人、中学生2人、延べ189人の参加があった。企画、準備及び当日の運営など子どもたちが主体となって取り組んだ。
1-1-(3)	職場体験等を通じた子どもの参加の促進	中学校において、講師の講話等によるガイダンス、将来への考えを発表するプレゼンテーション、地域の事業所での職場体験学習に取り組んだ。
1-2-(1)	意見の出しやすい環境づくり	小学生に意見などを「こどものき・も・ちカード」へ書いてもらい、その意見カードを児童館に設置されている「こどものきもちボックス」へ投函できる取組を継続して実施した。小学校を通じ全小学生へカードを2回配布し、6月には「にこにこシティいわくら2017」のまちでやってみたい仕事やお店について尋ね、こどものきもちボックスに75件の意見カードが投函された。にこにこシティいわくら実行委員会で意見カードに書かれた意見を参考にして、実行委員がまちの仕事やお店を決定した。11月には好きな遊び場について尋ね、こどものきもちボックスに40件の意見カードが投函された。
1-2-(2)	児童館事業を通じた子どもの意見表明・参加の場づくり	夏祭りなどの児童館行事で子どもの実行委員を募り、実行委員会を開催し、子どもの意見を取り入れ、行事を企画した。当日の運営にも実行委員が携わり、行事を実施した。
1-2-(3)	岩倉子どものまち事業の推進	児童館行事「にこにこシティいわくら2017」を実施し、子どもの参加は195人であった。実施にあたっては、子どもの実行委員を募り実行委員会を5回開催（実行委員延べ187人参加）し、まちの仕事や当日の準備など実行委員を中心に考え、運営した。
1-3-(1)	学校の行事等における子どもの自主性の促進	小学校では、委員会の活動の中で、自ら考えたことや企画した内容に取り組むとともに、啓発ポスター作成等を行った。また、学校行事では、授業で学んだ内容を発展させ、自分たちで企画した催し物に取り組んだ。中学校では、学校行事に留まらず地域や小学校への発信を積極的に行った。
1-4-(1)	ユースワーカーの育成	児童館ユースワーカー研修会を1回実施し、児童館職員30人が参加し、「子ども会議及び新聞の発行を実施するための手法」について学んだ。中学生2人がボランティアとして児童館に定期的に来館し、小学生に集団遊びを提案した。

平成29年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成29年度実績
2-1-(1)	子どもの遊び場や豊かな体験の場の環境整備	都市公園の遊具の保守点検を実施し、点検結果に基づき修繕を実施し、施設の環境整備を実施した。児童遊園の植木剪定、草刈、遊具の保守管理等により施設の環境整備を実施するとともに、北島児童遊園の場所を移設し、遊具を新設し整備した。地域福祉計画における福祉市民会議の部会の協力を得て「公園で遊ぼう事業」を2回実施した。
2-1-(2)	児童館や地域交流センターを核とした中高生世代の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県立岩倉総合高等学校美術部と連携して高校生が主体となって企画・運営し、プロジェクト-i「ちょっकिनぺったんシールで遊ぼう♪」を実施した。小学生30人、高校生20人の参加があった。</li> <li>・中高生事業「アナログゲーム」を7月に実施し、中学生9人の参加があった。</li> <li>・中学生事業「"体験型"人生ゲーム」を2月に実施し、中学生11人の参加があった。</li> <li>・児童館4か所で月1回午後2時から午後5時まで「中学生専用タイム」を延べ30回実施し、91人の中学生の参加があった。</li> </ul>
2-2-(1)	放課後児童健全育成事業の拡充	五条川小学校において放課後児童クラブ施設を整備し、平成30年度から対象学年を小学校6年生まで拡大し定員80人を受け入れる準備を行った。岩倉北小学校区内の夏休み利用希望児童を岩倉北小学校の低学年図書室及び調べ学習室で臨時開設し、29人を受入れた。五条川小学校区内の夏休み利用希望児童を同一校区内にある多世代交流センターさくらの家で臨時開設し、27人を受入れた。
2-2-(2)	学校開放の推進	各小学校で、土曜日の午前中に「放課後子ども教室」として体育館、運動場、図書館、コンピュータ室を開放し、休日における子どもの自主的な運動及び学習活動を実施し、延べ398教室に、3,824人の児童が参加した。岩倉市放課後子ども総合プラン基本方針に基づき、岩倉南小学校において放課後児童クラブとの一体的な放課後子ども教室を試行実施した。7月は5日間で延べ165人、3月は3日間で延べ62人の参加があった。
3-1-(1)	子どもの権利を考える週間における学習機会の拡大	各小中学校において、「岩倉市子どもの権利を考える週間」における子どもの権利に関する授業に加え、岩倉市小中学校人権教育研究会を設置し、共通の研究主題のもと、市内全小中学校において人権意識の高揚を図る活動に取り組んだ。第3回岩倉市子ども人権会議を開催し、各小中学校2人の児童生徒が各学校における人権尊重の取組についての情報交換や教育カウンセラーによる研修を受講した。
3-1-(2)	子ども自身による情報発信機会の拡大	児童館ユースワーカー研修会を1回実施し、児童館職員30人が参加し、「子ども会議及び新聞の発行を実施するための手法」をテーマとして、子どもの意見の聞き出し方や話し合いで決まったことを書き出す手法などについて学んだ。
3-2-(1)	保護者への啓発	子育てネットワークの協力の下、冊子「いわくら子育て親育ち十七条」を用いて、子育て親育ち講座（保健センター4か月児健診）等を実施した。「いわくら子育て親育ち十七条」と併せて、福祉課作成の「こどもたちキラキラいわくら子育て情報」を配布し、子育てに関する最新情報を提供した。

平成29年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成29年度実績
3-2-(2)	市民への広報及び啓発の推進	子どもたちが関わる子どものまち「にこにこシティいわくら2017」や岩倉総合高等学校との連携事業「プロジェクト-i」「幼児クラブ on Saturday」の活動について、1月に市役所展示スペースへ掲示し、周知した。子どもの権利救済窓口を広報紙11月号に掲載し、周知した。
3-2-(3)	事業者への啓発	子どもの権利救済窓口を広報紙11月号に掲載し、周知した。
4-1-(1)	虐待、体罰、いじめ等からの救済のための連携強化	被虐待児童生徒については、毎月、主任児童委員、一宮児童相談センター職員、保健センター職員、福祉課職員などの関係機関と岩倉市要保護児童等対策定例会議において情報共有を図った。学校、保護者や法務局等の関係機関の代表者が、いじめ問題対策連絡協議会においていじめの防止等に関する取組や考え方について意見交換を行い、効果的な取組事例等について情報共有を図った。被虐待児童に対し、保健センターや福祉課と連携し、情報共有するとともに、支援を行った。岩倉市要保護児童等対策定例会議にて、20件取り扱った。
4-1-(2)	被害に遭った子どもに対する支援の充実	被虐待児童に対し、保健センターや福祉課と連携し、情報共有するとともに、支援を行った。一部の学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者のカウンセリングを行った。市内全小中学校に子どもと親の相談員を配置し、児童生徒や保護者が気軽に相談できる体制の充実を図った。
4-1-(3)	関係機関との連携	被虐待児童生徒については、毎月、主任児童委員、一宮児童相談センター職員、保健センター職員、福祉課職員等の関係機関との要保護児童等対策定例会議において情報共有を図った。必要に応じて関係機関と連携し、育児支援情報の共有化を図り、支援を行った。虐待の疑いのある事例について、ケース検討会議を8回開催した。
4-2-(1)	子どもの権利救済窓口の充実	子育て支援課、保育園、児童館、子育て支援センターにおいて子どもの権利救済の窓口として、保護者からの直接の相談や電話相談に職員が対応し、相談内容に応じて関係機関と連携するなど子どもの見守り体制を取った。一部の学校にスクールカウンセラー、全小中学校に子どもと親の相談員を配置し、子どもや保護者が気軽に相談できる体制の充実を図った。スクールカウンセラーの相談件数は、1,061件であった。子どもと親の相談員の相談件数は、2,734件であった。家庭児童相談室で受け付けた相談件数は、実件数96件、延べ926件であった。市民相談室において、毎週月曜日午前9時～午後4時の時間帯で心の相談電話を実施したが、一般相談も含めて児童虐待や子どもの人権に関する相談はなかった。子どもの権利救済窓口として乳幼児健康相談や乳幼児健康診査、家庭訪問や電話・面接相談において相談に対応した。「おめでとうコール」を実施し、産後の母子へ電話による育児支援を行った。

平成29年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成29年度実績
4-2-(2)	身近な相談窓口の設置	一部の学校にスクールカウンセラー、全小中学校に子どもと親の相談員を配置し、子どもや保護者が気軽に相談できる体制の充実を図った。 スクールカウンセラーの相談件数は、1,061件であった。 子どもと親の相談員の相談件数は、2,734件であった。 5月に「じどうかんないろそうだんしつ」のお知らせと相談カードを小学校を通じて配布し、ポスターを各児童館で掲示し、周知した。相談件数は、83件であった。
4-2-(3)	岩倉市子どもの権利救済委員会の充実	岩倉市子ども条例に基づき、子どもの権利の救済を図るため、弁護士・児童相談センター長で組織する子どもの権利救済委員会を1回開催した。
4-2-(4)	相談窓口の広報	いわくら子育て情報紙を作成し、赤ちゃん訪問事業や各保育園で配布、保健センターや子育て支援センター、各児童館に設置した。 広報紙11月号で子どもの権利救済窓口について記事を記載し、周知した。
5-1-(1)	交流の場の充実	各保育園で「ちびっこクラブ」を11回開催し、延べ892人の参加があった。ふれ愛まつりで「あつまれちびっこ」を実施し、404人の参加があった。東部保育園の絵本図書室で135人の利用があった。 児童館（第二・第三・第四・第五・第六・第七児童館）で幼児クラブを実施し、延べ2,484組5,017の参加があった。第六児童館では、1～3歳児の親子を対象にした交流会を4回開催し、34組71人の参加があった。 くすのきの家でおもちゃ図書館を実施し、延べ258人の参加があった。 生涯学習センターでは子どもルームで6,523人の利用があった。おはなし会を89回実施し943人の参加があった。 多世代交流センターさくらの家では、子どもルームで延べ2,644人の利用があった。多世代交流事業として、さくらの家まつり、日曜日臨時開館、ふれあい歩け歩け大会、児童クラブの児童とさくらの家の利用者との交流会を実施した。
5-1-(2)	地域子育て支援センター事業の推進	子育て支援センターにおいて、育児広場にこにこフロアーや育児相談を実施し、子育て中の親子が互いに交流でき、子育てについて気軽に相談できる場を提供した。 育児広場にこにこフロアーは、延べ22,346人の利用があった。 育児相談は、117件の相談があった。 平成29年度から0歳児の赤ちゃんを育てている保護者が地域の中で安心できる交流場所として「おでかけひよこ広場」を開始した。延べ利用件数514件（うち育児相談20件）。
5-1-(3)	地域住民のつながりによる子育て支援の促進	各地域で民生委員・児童委員による親子交流会の実施した。児童館母親クラブや地域ボランティアの協力を得て児童館の行事やクラブ活動を実施した。読み聞かせのボランティアによる「おはなしの会」などを実施した。

平成29年度 岩倉市子ども行動計画 実績一覧表

施策番号	事業名	平成29年度実績
5-1-(4)	赤ちゃん訪問事業の実施	民生委員・児童委員、主任児童委員等の協力により、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、地域の中で安心して子育てができるように、子育てに関する様々な不安や悩みを聞くとともに、子育て支援に関する情報提供を行った。訪問時にお祝い品（第1子は絵本、第2子以降は歯ブラシ）とパンフレット「いわくら子育て情報」を配布した。訪問件数は、445件であった。
5-2-(1)	子育てに関する意識啓発	子育てに関する講演会（1回、29人参加）及び育児講座（13回、延べ152人参加）を実施した。子ども向け行事や遊び場情報をまとめた子育て情報紙を毎月発行し、広報紙やほっと情報メールで子育てに関する情報を提供した。
5-2-(2)	若い親に対する学習機会の提供	保健センターの健診時に併せ、乳幼児の親に対する講座を24回開催。小中学校において20回、幼稚園・保育園において6回講座を開催。生涯学習講座として5講座計14回を開催。
5-2-(3)	ひとり親家庭に対する理解の促進	子育て支援課に在籍している母子父子自立支援員が、必要に応じて窓口で相談等を行った。
5-2-(4)	将来の親となる世代に対する意識啓発	各小中学校において、学級生活や道徳指導、特別活動等を通じて人権について考え、自分や他者を大切にしようとする児童生徒の育成に努めた。助産師さんや妊婦さんを招いて、生命誕生の神秘さや一つのいのちが生まれるまでの大変さを聞いたり、自分が生まれたときの様子（身長や体重、家の人の当時の気持ち、名前の由来など）をインタビューした内容を伝え合ったりして、いのちについて考える機会とした。 児童館において、岩倉総合高等学校の「子どもの発達と保育」の授業科目を選択している生徒とともに、幼児クラブ on Saturdayを2回開催した。延べ110人の親子、高校生17人の参加があり、幼児親子と生徒が交流し、子育てについて考える機会を設けることができた。